

実は危ない？農作業現場

「農業は、死亡事故の多い産業です」というと、意外に思われる方も多いかもかもしれません。ましてや「建設業よりも死亡事故が多い」というと、尚更かもしれません。

農作業死亡事故は、年間で350～400件程度発生しています。実際に、平成25年の農作業死亡事故は350件でした(*1)。対して、同年度の建設業の死亡事故は342件、製造業は201件でした(*2)。

これを就業人口10万人あたりの発生件数にしてみますと、農業14.6件、建設業6.8件、製造業1.9件となります(*3)(*4)。言い方を変えてみますと、農業は、建設業の約2.1倍、製造業の約7.7倍の割合で、死亡事故が起きているといえます。

いかに農業による死亡事故が多いか分かります。

福島県においても、ここ数年では毎年10～15件程度の農作業死亡事故が発生しています。ちょうど1年前、昨年5月には、2週間のあいだに農作業死亡事故が立て続けに5件発生してしまいました。すべてが農業機械によるもので、そのうち4件は機械の転倒・転落が原因でした(*5)。

ご存じのように農業機械は大変便利ですが、使い方を誤ると事故の恐れがあります。

農業短期大学校研修部では、県内の農作業事故を少しでも減らすために、農作業安全を推進しています。

この一環として、6月3日(金曜日)に「農作業安全研修(第1回)」を農業短期大学校にて開催します。この研修では講義・実習を通して農作業安全を学びます。

また、現地研修というかたちで「現地で学ぶ農作業安全」の講座も設けています。

「安全に農作業をしたい」という方は是非ともお気軽にお問い合わせください。

参考資料

(*1)：農林水産省生産局技術普及課生産資材対策室調べ

(*2)：厚生労働省労働基準局安全衛生部安全課調べ

(*3)：農林水産省統計部「農業構造動態調査」

(*4)：総務省統計局「労働力調査」

(*5)：福島県農林水産部農業担い手課調べ